

TOPICS [トピックス]

令和5年度入社式を執り行いました

令和5年4月1日に入社式を執り行いました。

60周年の節目の年に、松永建設グループの一員として4名の新入社員を迎え入れることができました。

やる気で満ち満ちた新入社員と共に、全社一丸新たな気持ちで邁進してまいります。



ラジオCMをリニューアルしました!

FM NACK5(79.5MHz)にて月~金曜日の朝8時30分より放送中のラジオCMを、4月3日にリニューアルいたしました。

「宣誓! 地域経済の発展へ、共に歩み、誇りをもって、未来につながる感動を創り続けます!」

「宣誓! 筋肉質で骨太な会社にするため、社員一丸となって日々仕事をしていきます!」

「宣誓! 100年続く会社になるように、お客様からのありがとうを大切に、チャンスを掴み取ります!」など。

60周年を迎えた松永建設についての思いを、全て松永建設グループ社員の生の声でお届けしています。ぜひお聞きください!



東京支店を移転いたしました

本年二月、弊社東京支店は、業務拡大に伴い下記に移転いたしました。

これを機に、さらに皆様のご期待に添えるよう、社員一同一層の努力を重ねてまいりますので、今後とも倍旧のご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

【移転先】

〒1101-0041
東京都千代田区神田須田町二丁目7番1号
BIZCORE神田須田町 9階
電話 03-3526-2660
FAX 03-3526-2687 (共に変更ございません)



「Song Letters」#3エンディングテーマ

高橋美之 最新シングル

「ありがとうの種」が配信中

配信URL: https://orcd.co/miyuki20234
発売元: PAMA Music
配信元: The Orchard
presented by 株式会社松永建設

PV公開2週間で
2.3万回再生!

「Song Letters #3 大好きな先生」のエンディングテーマ「ありがとうの種」は、子どもたちの希望や未来、それを見守る温かな愛をテーマにした作品です。作曲はサウンドトラック界の名プロデューサー西岡和哉さん、作詞はNHK「みんなのうた」や絵本作家として活躍するこのひとみさんによる書き下ろしの作品です。

♪ありがとうの種
~YouTube「高橋美之の「Song Letters」#3エンディングテーマ~
作詞: このひとみ、作曲・編曲: 西岡和哉

ぜひ、お聴きください!

アクセスはこちら



Matsunaga Head Line News

[マツナガ・ヘッドライン・ニュース]

〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号 TEL:0120-980-633 FAX:048-798-0075



2023年6月発行 発行元:松永ホールディングス 発行人:松永大祐
www.matsunaga.gr.jp

2023 June Vol.51



おかげ様で 創業60周年を迎えました

CONTENTS

- [CONVERSATION] 対談 P2 【対談】株式会社 松永建設 代表取締役社長 松永大祐 × エコノミスト 崔真淑
- [PROPERTY] 施工物件 P4 R3 利根川右岸大福田堤防強化工事 / URAWA TERRACE / 墨田区吾妻橋1丁目計画
- P5 高橋美之の「Song Letters #3」
- [TOPICS] トピックス P6 令和5年度入社式 / ラジオCMリニューアル / 東京支店移転 / 「ありがとうの種」リリース



CONVERSATION 【対談】



松永建設の次の60年、キーワードは「人と環境、そして提案」

松永建設は今年4月、創業60周年を迎えました。前号での松永大祐社長の言葉にあるように、「変えてはいけないこと、変えなくてはならないことを明確に、【凡事徹底】の精神で邁進する」と決意。

今回はエコノミストの崔真淑さんをゲストに迎え、松永建設の今までを振り返りつつ、この先の60年で「目指すべきものは何か?」を考えてみたいと思います。

「三方よし」の考え方から生まれた松永建設の提案力

崔:今日は社長にお会いできるということで、いろいろと伺いたいことがあるのですが、ホームページを開くと「感動創造建設会社」という言葉が印象に残っていますが、これには、どんな想いが込められているのですか?



松永:松永建設は私で三代目になるのですが、その中で大切にしているのが「三方よし」の考え方なんです。お客様のニーズを汲み取り、我々が工場やオフィスを建設させていただき、その建物でお客様の事業が成功することで、そこに雇用が生まれ、街が発展していく。それを実現させるためには、我々も60年間のノウハウを活かした提案を行う必要があります。

我々は材木業から創業し、建築関連は当初メンテナンスから参入しました。そうして、地域に根差してさまざまな物件に携わっていると、次第にお客様の建物に詳しくなっていく。その結果として、新規の建築案件も次第に任せられるようになっていきました。

崔:建物を知り尽くした松永建設さんだからこそその提案をしてきたわけですね。

松永:私たちはメンテナンスの重要性を分かっているのだから、造って終わりではなく、その後も責任をもって建物と付き合い続けていくことを大事にしています。利益や生産性を考えると、メンテナンスはあまり着目されませんが。

崔:利益率や業績を守るために、不採算部門は縮小するというのが一般的な企業の考え方ですが、そこに捉われないのが松永建設さんの強みだと。

松永:はい。それと、設計施工にこだわっていることも大きいですね。早い段階から案件の計画に関わった方が、お客様のニーズを把握した上での提案ができます。法規制上での課題があっても、営業・設計・工事で相談しながら案件を進められるので、お客様のニーズを的確に捉えつつ、ローコストでより高品質なご提案に繋げることが出来ます。

profile

崔真淑(さいますみ)
 一橋大学大学院 博士後期課程在籍。東証マザーズ カオナビ 社外取締役。東京証券取引所 特任講師。経済学を軸に、経済ニュース解説、経済・資本市場分析を得意とするエコノミストとして活動。講演やコンサルタントなど、さまざまな分野で活動している。

崔:なんでも外注化するのが今のトレンドですが、同時に内製化すべきことを見極めるのも重要なポイントなので、そこを強みと考えているのは凄いことだと思います。

松永:事業の中でも本当にコアな部分は、内製化することで創意工夫できる幅が広がるんですよ。例えば、建物というのは作る時よりも、そこから何十年とかかるランニングコストの方が大きいんです。最近ではエネルギー価格が高騰していますが、断熱性能に優れた建物では、光熱費をかなり抑えることができます。

崔:2025年からは省エネ基準適合の義務付けも行われそうですよね。ZEB (net Zero Energy Building) やZEH (net Zero Energy House) という言葉も聞くようになりました。

松永:ゼロエネルギーに向けた取り組みは、今まさに弊社ビルでのモニタリングを計画しています。そこで学んだノウハウを、今後の案件に活かしていきたいですね。

崔:「こういう技術があります」とただ言うのではなく、観測データを取っているのは大きいですね。お客様への説得力も変わりそうです。社員の方も、環境問題に取り組む

ことで、モチベーションが上がるのではないのでしょうか。

松永:実はZEBやZEHについては、社員から「取り組みたい」と提案があったんです。建設業は、今までスクラップ＆ビルドがメインでしたが、今後はSDGsの観点からも「今ある建物をどう活かしていくか?」という考え方が重要となります。

「海外雇用や研修の話をもっとアピールしないとったくない」

松永:当社では現在、中長期計画を立てているのですが、今後のビジネスについてアドバイスはありますか?

崔:そうですね。まずは、来年ぐらいから団塊世代のジュニアの、そのまたジュニアの世代が成人します。新卒人口が激減するので、新入社員の雇用が力ギになると思います。また、働き手の不足という観点では、ダイバーシティな人材の雇用を、社会からの要請というだけでなく、必然的に進めていくことになるかもしれません。

松永:雇用の問題については、私たちが危機感を持っています。私は新卒採用における会社説明会にはなるべく顔を出していますが、「もっと堅苦しい、真面目な会社だと思っています」という声をよく聞きますね。建設会社の堅苦しいイメージを払拭し、「この会社は面白いぞ」というイメージを持ってもらうのが大切なので、その対策の一つとして、2年前からYouTube「まつけんチャンネル」で動画を投稿しています。後は、ダイバーシティな人材という点では、海外の土木学校に行つてリクルート活動を行っていますよ。

崔:社長が直接現場に行かれるんですか?

松永:ハノイの土木大学に行つてきました。日本人と同じ条件で採用していることもあって、みんな熱意がありますし、仕事を覚えるのも早いですね。

崔:それは、日本人の社員にもよい刺激になりそうですね。そういえば、先ほどZEBやZEHについては、社員の方から提案があったという話でしたが、こうしたモチベーションはどこから生まれているのでしょうか?

松永:建設業界の常ですが、松永建設も長年に渡りトップダウン型で会社を動かしてきました。社員が私の考えに共感してもらい、お客様と向き合うには人間力が必要になってくる。こういうものは、なかなか参考書や現場では学べないので、人間力を向上すべく様々な研修を実施しています。「企業は人なりの理念のもと、「人財」への投資に注力しており、年間3,000万円のコストをかけています。

崔:それは、この規模の会社としては凄い投資ですね。



※https://www.0101maruigroup.co.jp/ir/pdf/others/h_report.pdf

松永:建設業は工場で何かを生産しているのではないので、人が全てなんです。建物は同じものがなく、一品特注生産となるため、現物・製品がない状態で営業をするわけじゃないですか。そうすると、部門の垣根を越えてチームになり提案できないと、なかなか結果は出ません。だから、当社では忘年会や社員旅行も全社員を集めて、役職など関係なく一つになって盛り上げられるようにしています。

崔:それは、どこかで発信されていないんですか? 海外雇用や研修の話は、外へアピールすべきだと思いますが。

松永:そう言われると、あまり情報発信してないかもしれないですね。うちの会社つてPR下手なので…。

崔:でも、それって今求められていることですよ。いわゆるジョブ型雇用では「自分のことは自分で教育しろ」と言われがちですけど、会社というのはチームで動いているので、チームワークの中で没個性になるのではなく、個性を活かしてチームのパフォーマンスを上げられるのは、今まさに若い人たちが求めている環境だと思います。

松永:その上で成功体験というか、自分が関わったことで結果を出せたという実感を持たせていきたいですね。若手の社員には、なるべく早く現場責任者として経験を積んでもらっています。問題が起きても上司がバックアップできるフォロー体制を作ることも大切だと考えています。

独自の指標を作って会社を「どう変えたか?」を可視化する

松永:先ほどPRの話がありましたが、若い人に刺さるような、面白い方法はありますか?

崔:リクルート向けということでは、丸井グループの人的資本開示^(※)が参考になるかもしれません。丸井では会議を活性化させる方法として、「手挙げ」の文化を取り入れているのですが、導入以前と以降の様子を写真などで公開しているんです。その会社ならではの指標を出すことで、若い人が関心を持ちやすくなります。

このようなケースでは課題を認識しているだけでなく、実際に解決している様子を時系列などで見える化することが大事ですね。エーザイが一部公開している「価値創造レポート」も、「ESGインデックス」という形で社内制度の利用者数などを過去10年にわたって公表して話題になりました。AGC (旧旭硝子) は一時、従業員満足度が低いことを敢えて公開していましたが、これによって課題に向き合う姿勢をアピールしています。松永建設でしたら、研修参加率とか、人材交流時間などがオリジナル指標になりそうですね。



松永:なるほど、それをホームページなどで公開して、アピールしていくわけですね。他にも、「面白いな」と思った企業の取り組みがあれば教えてください。

崔:松永建設さんでは社員の自主性を大事にされているそうですね。その取り組みでは「どんなアイデアでも1つ500円で買い取る」という会社がありましたね。手を上げようという雰囲気は自然と出るので、自主的に何かをしようというハードルが下がります。その前後の提案率の差を、オリジナル指標として公開するのも面白いかもしれません。後は、Uniposというサービスがあるのですが、これを導入している企業では従業員が互いに感謝の気持ちをポイントとして贈りあっています。自分が何ポイント貰ったというのが分かるので、みんなから「必要とされている」という意識が生まれ、チーム力が向上しますよ。

松永建設の今後60年で「変わること」と「変わらないこと」

松永:先ほど、他社の人的資本開示の事例がありましたが、「他の業種のことをベンチマークして学ぶ」というのは大事だと思っています。私も社員によく「世の中は自分たち中心には回っていない」と常々話しています。

崔:これから人口が減って、マーケットが縮小するので、その時代に合った取り組みを行う必要があると思います。

松永:お付き合いのあるお客様でも、新規に建物を造るのではなく、今ある建物を補強したり、設備だけ刷新するといった提案も増えていますね。

ただ、松永建設の事業展開というのは、60年先もそう大きくは変わらないのかなと。今までやってきたことを大切に、環境対策などの新規ビジネスは本業に付帯する形でやっていく。そういう、変わらないといけない部分と、変えてはいけない部分の見極めが重要だと考えています。

CIVIL ENGINEERING & PROPERTY [土木物件 & 竣工物件]



▶ R3利根川右岸大福田堤防強化工事 ◀

(発注者：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所 様)

DATA □ 工事場所：茨城県猿島郡五霞町 □ 工事内容：築堤工事



▶ URAWA TERRACE ◀

(発注者：株式会社 ロイヤルコーポレーション 様)

DATA □ 建設地：埼玉県さいたま市 □ 構造：鉄筋コンクリート造10階建
□ 用途：テナント・共同住宅 □ 建築面積：169.18㎡ □ 延床面積：1,460.39㎡



▶ 墨田区吾妻橋1丁目計画 ◀

(当社ランドセット事業)

DATA □ 建設地：東京都墨田区 □ 構造：鉄筋コンクリート造7階建
□ 用途：共同住宅 □ 建築面積：177.68㎡ □ 延床面積：909.83㎡

高橋美之の Song Letters | 3rd Letters 興善寺幼稚園 編

YouTube「まつけんチャンネル」で絶賛シリーズ展開中の「Song Letters」。チャンネルに届いた手紙を元に、歌手の高橋美之さんが自転車に乗って愛を届けに行きます。4月4日に公開された第三弾では、かつて園児として通っていた方からの手紙を受け取った美之さんが、興善寺幼稚園を訪れました。

公開4週間で
1万回再生!

音楽あふれる興善寺幼稚園で
園児たちのマーチングを觀賞してきました!

手紙の送り主がかつて通園していたという、埼玉県白岡市にある興善寺幼稚園を訪ねた美之さん。寺院の山門を抜けると、そこには緑あふれる園庭と、それと調和するように緑や茶色といったナチュラルカラーに彩られた園舎がありました。

「メロディ、リズム、ハーモニーというのは、人間生活の基本です。さらに、仏教精神を大切に、礼拝をすることで、感謝の心を育んでほしいですね」(興園長)

その後、マーチングの発表会当日に、改めて幼稚園を訪ねることにした美之さん。



さっそく、園児たちに囲まれた美之さんは、保育士歴45年のベテラン・植木先生などに園内を案内してもらいます。そこで目にしたのは、「われらは ほとけの こどもなり〜♪」という仏教の歌を、朝の礼拝の時間にリズムよく歌っている園児達の姿でした。その後も、教室で太鼓を叩き、園庭でフラッグを振るなど、活発に活動している園児たち。どうやら、幼稚園を代表する行事であるマーチングの発表会が近々行われるようで、園児たちは夢中になって練習しています。

興淳明園長によると、マーチングに取り組むことで、園児たちが気持ちを一つにすることができるそうです。

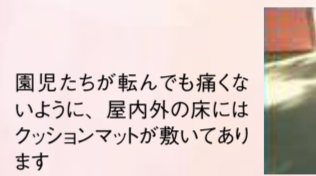
続きは、まつけんチャンネルをご覧ください。



高橋美之の
興善寺幼稚園
NAVI



森をイメージしたという園舎は、ムクノキなどのシンボルツリーと調和するデザイン!



園児たちが転んでも痛くないように、屋内外の床にはクッションマットが敷いてあります



画紙を使わずに作品などが飾れるように、教室の壁がマグネットボードになっています

塩崎プロデューサーの一言

歌と動画に込めた想い
それが受け継がれることを願って

今回も「Song Letters」を統括したのが、数多くのドキュメンタリーテレビ番組などを手掛けている塩崎プロデューサー。同氏によると、この動画は「メロディ、リズム、ハーモニーは人間生活の基本」という興園長の言葉に、大きな影響を受けているそうです。

「わずかな撮影の期間ではありましたが、幼稚園での3年間を通して、園児たちが自然と人間関係を育んでいく姿を垣間見ることができました。礼拝の歌にもありますが、母体が寺院ということで、「感謝の気持ち」を大切にしているんですよ。それが情操教育に繋がっていて、園児たちが年齢に関係なくしっかりと先生の話の話を聞いている。これは凄いことだと思いました」(塩崎)

この収録の後に生まれたのが、エンディングテーマの「ありがとうの種」です。

— ありがとうの種を
心の庭にまいたら
どんな花が咲くでしょうか

これは今回の動画のために作られたオリジナル曲。「ありがとうの教え」が大きな花を咲かせて、また次の世代へと受け継がれてほしいという願いが込められています。

※6面に歌の告知があります



工事中も、そして完成してからも
「園児の安全」を第一に考えて…

興善寺幼稚園で行われた、園舎と事務所の改修工事を担当したのが、営業開発部に所属する高木真と、建築部の東正行です。

実は同期入社という2人は、それぞれが営業と現場代理人を担当。まずは、事務所の改築に着手しましたが、「園舎と同じ敷地内にあるので、園児が工事区画に入らないように導線を配慮するほか、入り口に誘導員を配置し、ガードフェンスにはわずかな隙間も作らないように心がけました」(東)と話しています。事務所が完成した後は、そこを仮園舎として運用。以前の事務所はカーペットを敷いていましたが、園児が利用することから、PVCマットを配置しました。汚れても拭き取れる床となり、表面が木目調なことから、「そのまま職員室として使えるデザイン」だと好評です。

その一方で、重機が好きな園児向けに見学会を行ったり、園児が古い園舎の外壁に落書きをする機会を作るなど、幼稚園ならではの触れ合いもありました。これは、コロナ禍にあって、なかなか園児の参加できる行事がないことから、「思い出作りをしてあげたい」という幼稚園側のリクエストを受けてのもの。地鎮式(寺

社流の地鎮祭)では鎌入れのための小山をたくさん作り、園児たちが小さなスコップを手に参加しています。

こうして完成した園舎は、自然との調和を重視した建物になりました。敷地内に昔からある木は極力残し、やむを得ずに伐採した場所には、サークル型の手洗い場を設置。その天板も緑に配色するなどして、かつての面影を残しています。さらに、園庭をぐるりと囲むようにレイアウトした園舎からは、どの教室からでも園児の様子が確認できることを重視しました。動画の撮影時に、「その様子を実際に確認できた」と笑顔を見せた高木。「園児の安全が第一」という想いから作られた園舎は、今も多くの園児が安心して通える場所になっているようです。



営業開発部 統括グループリーダーの高木真(左)、建築部 建築5グループリーダーの東正行